

# 文学教材における「理解の能力」の評価について

——「おいのり」を中心に——

社 浦 淳 子

はじめに

平成元年の中学校学習指導要領の改訂に伴い、指導要録の内容も観点別の評価が重視されるようになった。多くの学校で校内研修のテーマに「評価」が取り上げられ、そしてそれぞれの教師が適切な評価の方法を模索している。観点別の評価は今までも行われてきたことなのだが、新たに通知票や高校入試の調査書への記入に加え、従来からあった生徒一人一人の学力を把握し高めたいという教師の永遠の願いを触発し、いっそうの研究の広がりを見せていると思われる。本校でも指導に生かすための評価の方法を研修している。今回は文学教材における「理解の能力」の評価の実際について検討を行い、「評価」の方法や問題点を明らかにしたい。

ある小説を指導した場合、情景や登場人物の心情を生徒がどのように読みとっているのかを知る方法として感想を書かせることをしばしば行ってきた。(感想文といっても、

書かせる場面や課題の出し方によってさまざまなものがある。)もちろん、ペーパーテストや授業中の発言のなども生徒の理解度を知る上で有効な方法であるが、一人一人の微妙な読み取りの違いまでを把握するためには感想文を読むことが最も適していると考ええる。しかし、それをどう評価するかということになると迷うことが多く、経験による勘に頼っていたといっても過言ではない。ふだんは限られた時間の中で、読んで返却するのが精一杯だがこの機会に自分の評価の基準や方法を探ってみたい。

## 一 指導の実際

①教材 三木卓作 小説「おいのり」(「国語1」光村図書) 光村図書一年「国語」では、詩「のはらはうたう」、物語「スカイハイツオーケストラ」に続く三番目の読物教材である。入門期の学習を配慮し、親しみのもてる内容で平易な文章で書かれているものを選んであると思われる。

ネコたちにいつも魚をくれる魚屋のユウゾウさんが救急車で運ばれた所から話は始まり、ユウゾウさんの回復を祈って終わるといふ話である。そこには孤独なユウゾウさんとネコたちの深い絆が描かれており、人間同士にはないユーモラスな感じがあり心温まる。

しかし、十四ページにわたる長編で、しかも、途中にダイジロウというネコが一人で回想をする場面が二カ所もあり、あらずじをとらえられない生徒もいると思われる。また、妻を亡くし、息子とは断絶している男の寂しさ、それを酒で紛らわしたりネコに優しくしたりしている心理を理解することも難しいと思われる。

そこで今回は、重要な語句に注目させつつ、それぞれの場面で登場人物の心情や人物像を生徒がイメージ化できるように手助けをしたいと考える。そして、小説を読むおもしろさを味わい、自分なりの感想を持たせたい。

②対象 富山県高岡市立志貴野中学校一年二組

③年月 平成六年六月

④目標と仮説

ア場面ごとに与えた課題を考えることで、内容を読み取り、場面や人物像を想像することができる。

イ各授業の終わりに感想を書き、学習のまとめと蓄積をすることができる。

ウ音読を繰り返し行い、小説のおもしろさを味わうことができる。

学習のまとめを教師が読みとることで、一人一人の生徒の読みの実態を捉える方法を見いだせるのではないかと考える。

⑤指導過程（全四時間）

時	学 習 活 動
1	<p>1 朗読テープを聞き、作品のおもしろさを味わう。</p> <p>2 話の概要をとらえる。（登場人物・回想と現実の場面による構成・あらずじ）</p> <p>3 感想を発表し合う。</p> <p>4 学習のまとめを書く。</p> <p>【課題】おもしろかったところ、心に残ったところなど初めて読んだ感想を書きましよう。</p>
2	<p>1 本時の学習課題を確認する。（ユウゾウさんを心配するネコたちの様子を読み取る。）</p> <p>2 希望者による音読。（あらかじめ家で練習してくる。）最初～六ページ二行目まで。</p> <p>3 どの会話をどのネコがいったかを考え、分担して読む。</p> <p>4 会話や行動からそれぞれのネコ像をとらえ、ノートに書き、発表する。</p> <p>5 夜空や海の様子を描写した表現の意味を考え、発表する。</p> <p>6 学習のまとめを書く。</p>

<p>3</p> <p>読みとって思ったことを書きましよう。</p> <p>【課題】それぞれのネコのことや情景描写などを</p> <p>1 本時の学習課題を確認する。(ユウゾウさんの人柄・考え方・生活をとらえる。)</p> <p>2 希望者による音読。六二ページ三行〜六六ページ十行まで。</p> <p>3 ユウゾウさんの人柄や考え方を表す表現を見つけ、発表する。</p> <p>4 家族や生活の様子について読みとったことを発表する。(擬態語や擬声語に注目して。)</p> <p>5 学習のまとめを書く。</p> <p>【課題】ユウゾウさんの人柄を読み取って思ったことを書きましよう。</p>	<p>4</p> <p>1 本時の学習課題を確認する。(ヨシロウの報告を聞いたダイジロウの気持ちを読み取る。)</p> <p>2 希望者による音読。六六ページ一〜最後まで。</p> <p>3 息子のことを思い出したダイジロウの気持ちを読み取り、発表する。</p> <p>4 初めてあった夜、ダイジロウがユウゾウさんにしてもらったことを見つけ、その時の二人の気持ちを発表する。</p> <p>5 しっかりと声で「ネコのおいのり、やめ。」といったダイジロウの気持ちを話し合う。</p>
--	--

<p>6 学習のまとめを書く。</p> <p>【課題】「おいのり」という題にこめられた作者の思いや作品全体を通して思ったことを最後のまとめとして書きましよう。</p>	<p>漢字練習・意味調べ・ワークブックなどを家庭学習とする。</p>
---	------------------------------------

## 二 評価の実態

実際の授業においては、一時間が終わるたびにプリントを集め点検した。授業の内容をほぼ理解したと思われるものには二重丸、あと一歩と思われるものには一つ丸をつけ、明らかに読み間違いと思われるものには波線をつけて返した。しかし、予想していた以上に表現力が乏しく、物足りない感想が多かった。書き慣れていないために、短時間で自分の考えをまとめることが大変だったようである。

また、時間的に制限があったために、一人一人の感想をクラスで紹介することはできなかった。二学期には「大人になれなかった弟たちに：」において、同様に一時間のまとめを書かせ、それを次の時間に十名程度選んで、ワープロで打ち直して返した。一時間ごとに書く内容に深まりが出て、書く意欲も増した。次の考察は、夏休み改めて生徒の感想を読み直して行ったものである。最初は四クラス

全部行うつもりであったが、時間的に無理だったので一クラスにしぼった。

第二時〜第四時のものはねらいに対して「A」（十分満足できる）と「B」（おおむね満足できる）に分類することを試みた。（無印は「C」）

#### ①第一時のまとめの場合

初発の感想に当たるところなので「ABC」に評価をすることはやめ、内容によって分類してみた。資料①〜⑥の一番上の段が第一時のまとめを分類したものである。

I ユウゾウさんのネコたちに対する優しさに着目した感想

II ひとりぼっちで酒を飲むユウゾウさんのさびしさに着目した感想

III ネコたちがユウゾウさんのことを心配したりおおいのりしたりすることに着目した感想

#### IV 疑問を中心に書いた感想

まず、Iの中で七人のまとめを見ると、2番A君「神様」や4番Y君の「やさしく」などは本文にある言葉をそのまま使い、内容も読めばわかる程度のものなのに対して、3番Sさんの「かんげい」や5番Yさんの「頼りにされている」や6番Sさんの「ネコたちを大切にしていた」などは自分なりに解釈した言葉遣いをしている。後者の方が理解の能力は高いといえよう。また、4番は同じ内容を繰り返しているだけだが、6番は「ふつう」の魚屋さんと比較し

て述べていて説得力がある。

IIでは、ほとんどの生徒が酒でさびしさを紛らわしているユウゾウさんの気持ちを讀みとっている。

しかし、7番T君のように酒を飲んではいやいでいるユウゾウさんの気持ちが讀みとれない生徒もいる。

IIIの生徒は作品全体に目を向けていると思われる。ネコと人間の交流やおいのりを通して作者が伝えたかったあたかい思いについて考えようとしている。このグループは第四時のねらいに到達しやすい。

IVは疑問を持つている生徒の感想である。27番T君のような素朴なものや、終わり方に満足していないものがあり、これらの反応はなかなか事前に予想できないものであった。この中29番Yさんのように表現に注目している生徒は全体的に非常に少ない。どうしても内容だけに偏りがちなので、このように表現にも目を向けるようにしてやることは指導者としての課題の一つである。

これらの感想もある程度の評価はできる。しかし、特に表現力や語彙力の差が表れ、読解能力だけの評価はなかなか難しい。

#### ②第二時のまとめの考察

ここでは兄貴分として落ちついており、ネコたちの中ではもっともユウゾウさんを心配しているダイジロウ、ダイジロウの弟分としてすばやく動くヨシロウ、調子がいいが本当はユウゾウのことを心配しているミエコというような

ネコ像をつかみ、さらに、夜空を仰いでいるときの不安なダイジロウの心境を情景とともに読み取らせたいと考えた。学習のねらいを達成できたと思われるものに「A」の印を資料につけた。二つのことを聞いたので片方だけ書いた生徒も多かった。また、それぞれのネコの詳しい様子は書かないで、15番Aさんのようにまとめて表現している生徒も多い。

19番U君のように授業で板書にまとめたり、話し合いの中でできたこと以外に自分の考えたことなども入れながらまとめることができる生徒は少ない。この生徒は表現力（特に書く力）が備わっているので、理解したことを十分に書き表している。一方で、なんとなく理解はしているのだがどう表現していいかわからず、文が乱れたり、言葉足らずだったりする生徒が多い。（10番・16番など）

しかし、数名をのぞいてほとんどの生徒は、ねらいに到達していると考ええる。もちろん表現力としては未熟なものが多いが、何度も読んでみるといわんとしていることが伝わってくる。

21番Mさんは簡単に書きすぎている、これだけでは本当にわかっているのかどうかかわからないが、第四時まで進んでみると、理解した上での表現だということがわかる。

### ③第三時のまとめの考察

ここでは、できた方・「神様」と呼ばれている優しいユウゾウさんと、仕事が終わって夜一人になるとお酒をぐいぐ

い飲み、さびしさを紛らわしているユウゾウさんを一人の人間としてとらえさせたいと考えた。しかし、昼間はあまりにもできすぎた人間として描かれているために、酒をがぶがぶ飲んでばかりと倒れる姿とイメージを重ねることが難しかったようである。

15番Aさんや18番Tさんのように「かわいそう」とか「悲しい」というまとめかたが精一杯のようであった。11番Nさんは「いい人」だけど「欠点」がある人とまとめ、24番Tさんは「神様と呼ばれているときと、お酒を飲むときは、全然ちがいます。」とまとめてはいるが、これらまだ一人の人間としてイメージ化してとらえていないと判断した。学習のねらいから言えば、前例は「A」、後例は「B」と評価できる。

ただ子供向けの童話としてやや極端に描かれているものをこのように人物像をとらえさせることに問題があったのかも知れない。

### ④第四まとめの考察

ヨシロウの報告を聞いたダイジロウがユウゾウさんの快癒を願っておいのりをする最後の場面である。初めて会った夜のことを思い出すことで、おいのりをする前とお祈りをしたあとでのダイジロウの心の変化（成長）を読み取らせたいと考えた。まとめとしてはこれが最後になるので、全体について書かせることを意図した。授業では題名ついて話し合っていないが、授業を通して一人一人の生徒が

テーマについてどのように考えたかを見てみようと思った。しかし、課題の出し方が二つのことを漠然と聞いたので、いろいろな感想が出て評価しにくかった。

17番Tさんは後半繰り返し返しが有り冗長だが、「ユウゾウさんとダイジロウはなんかただの關係じゃなく深くつながっていたんだ」と二人の心の交流に目を向けている。19番U君は「ネコたちとユウゾウさんとの心が通じ合っている」ということを題にこめてあると思う。」と題名の意味をとらえ、さらに「ネコたちとユウゾウさんとの心の交流が描かれている」と的確に主題をとらえている。このように、「心の交流」とか「つながり」と言った言葉を使って書いている生徒を「A」と判断した。

次に、4番Y君は「ダイジロウが本当にユウゾウさんのことを心配して、自分たちでできることをユウゾウさんにしてあげたいとおいのりしたので『おいのり』という題がついたと思う」とまとめている。ネコたちのユウゾウさんと思う気持ちを主題として感じてはいるのだが、それを「つながり」と「心の交流」「つながり」などといった表現でまとめていないので、「A」と「B」と間といたところだろうと思う。22番Yさんは『おいのり』という題はユウゾウさんが救急車で運ばれていくのを見て、心配したネコたちがユウゾウさんが早くよくなるように丘の上で折ったことを題名にしていると思った。」とまとめており、4番Y君と似ているのだが、Y君の「自分たちでできることをユウゾ

ウさんしてあげたい」といったネコの気持ちを表現した部分がなく、事実だけを述べているので物足りない感じがする。これを評価すると「B」なのだろうか。

最後に、25番T君のように「人間とネコが仲よくしなさい」といつているのではないかとやや道徳的に主題をとらえたり、さらに作者の意図を読み違えたりした生徒もいる。T君は決して能力の低い生徒ではない。自分なりの読みをしようと意欲的に授業に臨み、発言も多い。しかし、いざまとめるとなると、授業中考えてきたことをどう書き表してよいか迷うようである。

### 三 評価の基準とこれからの課題

二で示したように、私が行った評価はその観点や基準を模索しながらの作業であった。各授業におけるねらいを明確にし、そのねらいをどのような形で生徒が表現したときにねらいが達成されているとみるのかということを考え続けてきたと言い換えてもいいだろう。

私自身、現在のようなやり方で「A」「B」の評価をすることがそれほど意義があるとは思えないが、現実問題として避けては通れない。今回、とりあえず「A」「B」に評価したが、その作業を通じて、一人一人の読み取りの特徴や表現力の問題を把握できたことが、最も良かった。

学習のねらいに達成していないと判断した生徒について

は、以下のような問題点が明らかになった。

・基礎学力の不足

・表現力の不足（文の乱れ・詳しく書けない）

・道徳的な型にはまった読み方

一方、自分なりの言葉でまとめたり、全体を考えて書いている生徒の感想は高く評価できた。今回は、指導者が教えたことと理解させたいことを評価の対象としたが、本来は生徒独自の読みも考慮すべきなのだろう。

残された問題としては、まず、課題はできるだけ一つにしばった方がよい。二つあるとどちらかに偏ったり、一つだけ書いたりする生徒がいて評価がしにくい。また、今回のようにすべて生徒が書くのではなく、書き出しを書いたり、穴埋め式にしたりする方法をもつと活用すべきだろう。評価の時間も短縮される。

さらに、選択肢を選ばせるペーパーテストのような形のものや朗読による理解の能力の評価も組み合わせながら評価することを考えていかねばなるまい。

石田恒好氏は「観点別学習状況」は、いわゆる絶対評価によって評価が行われるが、単元や一時間について指導目標を明確にし、その達成状況を集積して行う評価である。したがって、基礎的・基本的な内容の達成状況、その徹底の程度や不徹底の部分を小さな学習単位で明らかにできるの、不徹底部分の学習のし直しがその場でできるのはもちろん、指導目標の明確化、具体化は、いかに指導す

べきかの工夫、改善も容易にする。すなわち、『観点別学習状況』の評価を適切に行うようにすれば、自然に基礎的・基本的な内容の重視・徹底にもなるのである」（『観点別評価のあり方』『観点別評価の手順』一九九四・八図書文化九から十ページ）と述べている。

このように観点別学習状況の評価をすることが、「不徹底部分の学習のし直し」や指導の改善に効果的だとすれば、観点別評価は大変有効なものだと考えられる。しかし、「評価を適切に」行うにはどうすればよいのかという課題が解決できなくては、その有効な評価も生きてはこない。

生徒の書いたものを評価するには、それを読み抜く教師の力量が必要である。今回は一時間ごとのものであったが、年間を通して観点をみていけば、生徒の変容の見極めができるかもしれない。評価することが、生徒の向上につながる、指導者の鏡になるようにしていきたいと思う。

（高岡市立志貴野中学校）

### 参考文献

- (1) 北尾倫彦・金子守編集『中学校 国語 観点別学習状況の評価基準表』（図書文化 一九九四年五月）
- (2) 佐藤和彦「生き生きとした言語活動を目指す国語教室——『おいのり』実践国語研究二三八号』一九九四年七月）











